

京都教育大学 F D ニュース

No. 41

2008 年 4 月 8 日

FD 委員：巻本彰一，中峯 浩，村上登司文、榊原典子

「授業アンケート」についての調査結果

平成 19 年度には前期と後期に授業アンケートを実施しました。また、平成 19 年 12 月と平成 20 年 1 月には、教授会の前に、学内講師による F D 研修会を実施しました。こうした F D 活動を専任教員に評価していただくために、平成 20 年 1 月に、授業アンケートについての調査を行いました。調査結果をまとめましたので先生方にご報告します。

(1) 単純集計

○55 名の教員の回答があり回収率は 45%

(専任教員数は 122 名) であり、教員を対象としたこの種の学内調査としては回収率は高い方である。ただし回答教員の内 9 割が授業アンケートを実施しており、回答者が授業アンケート実施者に少し偏っているともいえよう。(表 1)

表 1 授業アンケートの今までの実施回数

2 回以上実施したことがある	49 (89.1%)
1 回実施した	5 (9.1)
実施したことはない	0
N. A.	1 (1.8)
計	55 (100%)

表 2 アンケートの実施はあなたの授業の改善に役立つか

とても役に立つ	6 (10.9)
役に立つ	24 (43.6)
あまり役に立たない	18 (32.7)
い	5 (9.1)
全く役に立たない	2 (3.6)
N. A.	
計	55 (100%)

表 3 返却された授業アンケート結果の使用

授業実施に大いに参考にしている	7 (12.7)
少し授業実施の参考にしている	41 (74.5)
授業実施の参考にしていない	5 (9.1)
アンケート結果は見ない	1 (1.8)
N. A.	1 (1.8)
計	55 (100%)

○ 半数以上の回答教員が、授業アンケートが授業改善に役立つと回答した。(表 2)

○ 8 割以上の回答教員が、授業アンケートの結果をある程度授業改善に役立つと述べている。(表 3)

表4 授業アンケートの改善点（一つのみ選択）

質問項目の内容をもっと工夫する。	6(10.9)
授業アンケートを取る対象授業科目をしぼり、定期的に変更する。	13(23.6)
教員に返却する調査結果のまとめ方を工夫する。	2(3.6)
学生にフィードバックするために、調査実施時期を早める。	5(9.1)
その他	16(29.1)
N. A.	13(23.6)
計	55(100%)

○改善点として最も多く選択されたのが「授業アンケートを取る対象授業科目をしぼり、定期的に変更する」である。平成19年度後期の授業アンケートは全科目を対象としたので、平成20年度は実施科目を検討することが課題と言えよう。

表5 授業アンケートで高得点の教員による研修会は自分の授業改善に役立つか

○今年度は、授業アンケートで高得点の教員による研修会を行ったが、6割近い教員が役立つと述べている。(表5)

はい	31(56.4)
いいえ	19(34.5)
N. A.	5(9.1)
計	55(100%)

表6 教授会前に実施した研修会に参加したか(12/12、1/16のいずれか)

○回答教員の7割近くがこのFD研修会に参加している。視点を変えれば、今回の調査に回答した教員の多くがFD活動に関心が高い教員であるとも言える。(表6)

はい	37(67.3)
いいえ	18(32.7)
計	55(100%)

表7 授業改善のFD研修会への参加を「教員の職務」とすることに賛成か

○FD研修会への参加を教員の職務にすることには7割の教員が反対している。(表7)

はい	16(29.1)
いいえ	38(69.1)
N. A.	1(1.8)
計	55(100%)

表8 学生に授業アンケート結果をフィードバックすることが必要と思うか

○7割の教員は、授業アンケート結果を学生にフィードバックすべきと考えている。(表8)

はい	38(69.1)
いいえ	17(30.9)
計	55(100%)

○フィードバックの仕方として、8割以上の回答教員が授業シラバスに、「授業アンケートに応じて」などの欄を設けることに反対である。(表9)

表9 学生へのフィードバックのために、授業シラバスに「授業アンケートに応じて(仮)」の欄を新設することが適切だと思うか

はい	7(12.7)
いいえ	47(85.5)
N.A.	1(1.8)
計	55(100%)

○他の教員の授業アンケート結果を参考にしたいと思う教員は2割程度にすぎない。(表10)

表10 あなたは他の教員の授業アンケート結果を参考にしたいか

はい	13(23.6)
いいえ	40(72.7)
N.A.	2(3.6)
計	55(100%)

(2) クロス集計

ここでは、クロス集計により分析した結果を示します。

表 頭(X軸) No.5 授業アンケートの改善点は<SA>5カテゴリ

表側1(Y軸1) No.4 返却された授業アンケート結果の利用方法<SA>4カテゴリ

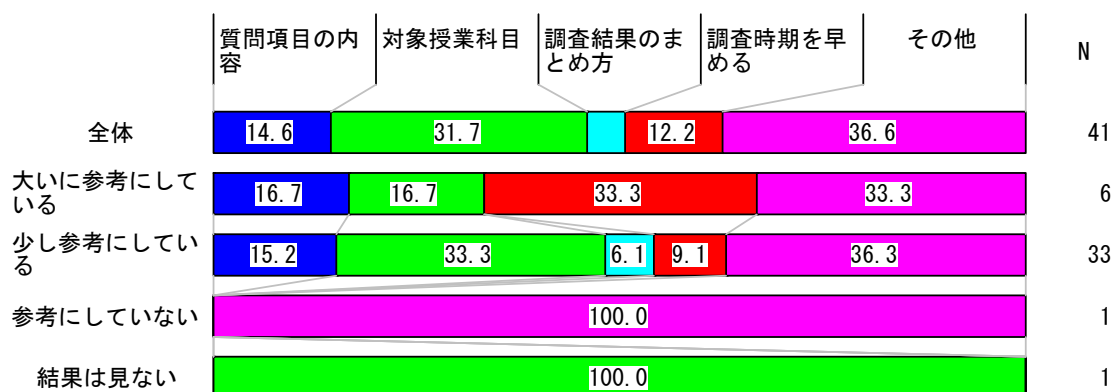


図1 授業アンケート利用度別 × アンケートの改善点

○授業アンケートを「大いに参考にしている」回答者(6名中2名)は調査時期を早めることを改善点としてあげている。「少し参考にしている」回答者(33名中11名)は対象授業科目をしばり、定期的に変更することを改善点として選択している。

表 頭(X軸) No.6 アンケート高得点教員の研修会が役立つか<SA>2カテゴリ

表側1(Y軸1) No.7 教授会前のFD研修会に参加したか<SA>2カテゴリ

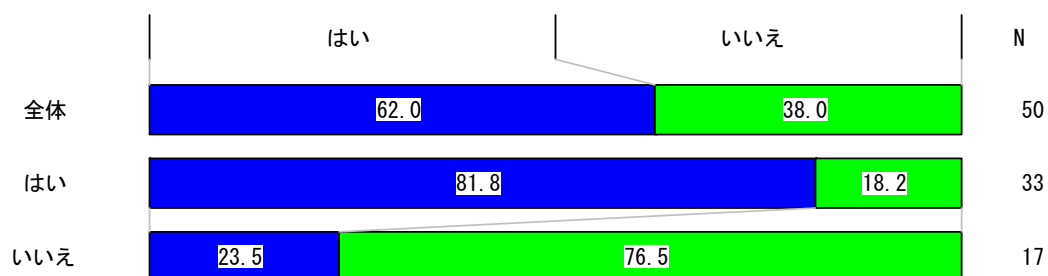


図2 FD研修会への参加 × 高得点者教員による研修が役立つか

○12月と1月の教授会前に実施した授業アンケート高得点教員によるFD研修会が役立つとする回答者は6割である。しかし、実際に参加した回答者のうち8割以上が、その研修会が役立ったと回答している。それに対し、参加しなかった回答者の8割近くが役立たないと回答している。実際に参加した回答者の意見をより参考にしたい。

表 頭(X軸) No.11 他教員のアンケート結果を参考にしたいか<SA>2桁ゴリ
表側1(Y軸1) No.3 アンケートが自分の授業改善に役立つ<SA>4桁ゴリ

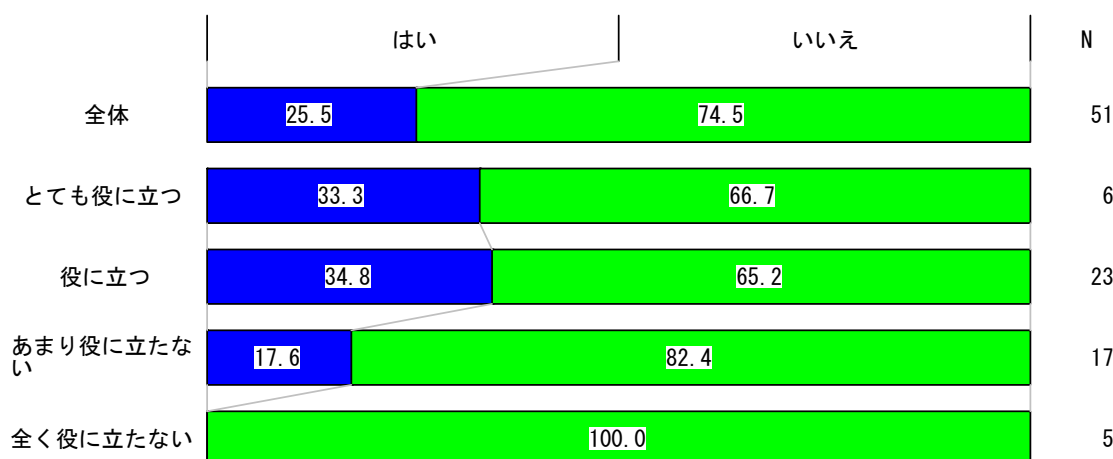


図3 授業アンケートが授業改善に役立つ × 他の教員のアンケートを参考にしたいか

○他の教員の授業アンケート結果を参考にしたいかの質問については、7割以上の回答者が「いいえ」と答えている。授業アンケートが役に立つと回答する者においても、6割以上の回答者が「いいえ」と回答している。回答者の多数が、他の教員のアンケートの参考については否定的であり、FD活動の一環として授業アンケート結果を公開することについては消極的といえよう。

表 頭(X軸) No.7 教授会前のFD研修会に参加したか<SA>2桁ゴリ
表側1(Y軸1) No.3 アンケートが自分の授業改善に役立つ<SA>4桁ゴリ

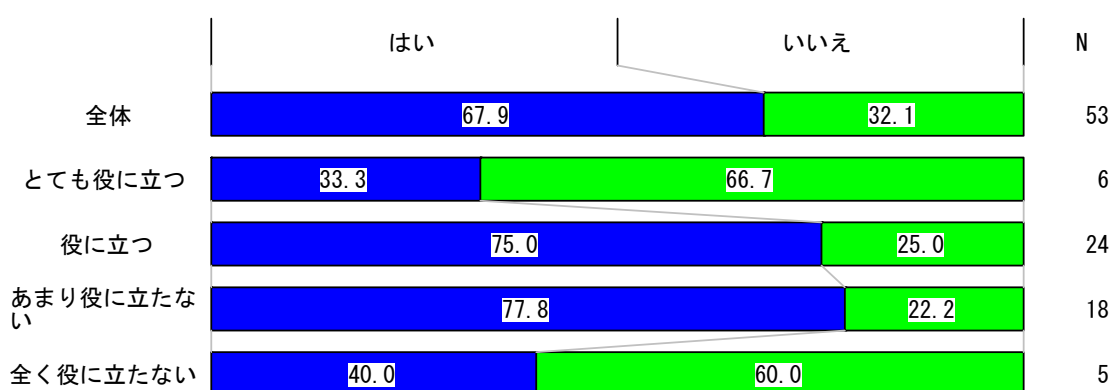


図4 授業アンケートが授業改善に役立つ × FD研修会への参加

○授業アンケートが「役に立つ」と回答した者と、「あまり役に立たない」と回答した者は、いずれも7割以上が教授会前のFD研修会に参加している。つまり、授業アンケートが役に立つかの評価と、12月と1月のFD研修会への参加には強い関連性は見られない。これは、授業アンケートが「あまり役に立たない」と思っているにもかかわらずFD研修会には参加していることを示し、回答した教員のFD活動への積極的姿勢が見られる。